

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

第九次中期事業計画(案)

平成24~26年度

酪農部だより

平成24年度計画生産について

嫁・婿が語る酪農の魅力／大渡 恵さん

全国酪農青年女性会議

浦久美子委員 農山漁村女性・シニア活動表彰

農林水産大臣賞を受賞！



酪農トピックス／

北海道天塩町・JAてしお「友愛牧草」が福島県内の酪農家へ届けられる!!(福島県酪協より)ほか

東日本大震災復興支援畜産フェア

TPP反対運動に酪農関係者約100名が参加

日本酪農見て歩紀(北海道興部町 柴田牧場)



4

2012 April No.559



全国酪農業協同組合連合会

第九次中期事業計画案

平成24~26年度

本会は、第八次中期事業計画（平成21年度～23年度）を平成23年度で終了し、平成24年度から第九次中期事業計画に基づき、事業を展開することになります。3月6日の理事会で承認され、3月12日から全国6ヶ所において「ブロック別会長・組合長会議」にて報告・協議が行われました。最終的には7月26日に予定しています通常総会に諮ることになります。

以下に、第九次中期事業計画（案）の概要を報告いたします。

基本的考え方

解消を図ることができた。しかしながら、自己資本はいまだに脆弱であるため、財務基盤の強化を進めていく。

統組織として力を結集して、酪農生産現場から発生する生産物の有利販売に努める。

酪農専門農協の全国連としての全酪連の果たすべき役割は、会員農協・酪農家の経営安定を図り、同時に、消費者からも理解が得られる酪農経営、すなわち、それぞれの地域にある資源を活用した酪農経営を守り、支援していくことによって、日本の酪農生産基盤を維持・拡大させていくことである。その命題を実現していくためには、牛乳乳製品の消費減退や酪農の担い手不足の問題等解決していくべき課題が山積している中で、何よりもまず酪農経営の収益向上を進めていくことが重要である。

第九次中期事業計画（平成24～26年度）においては、会員農協・酪農家の経営安定を図るため、①酪農生産環境整備の推進、②酪農生産現場の生産性の向上、③酪農生産物の有利販売の強化を実現するべく、全力を挙げて会員農協・酪農家の様々な取組みを支援し、会員農協・酪農家の期待に応えられる組織であることを最大の目的として、事業推進に取り組むこととする。

また、第八次中期事業計画（平成21～23年度）においては、会員農協並びに金融機関等の協力・支援の下、経営の再建に努めた結果、全酪連グループ全体の連結決算として累積損失の

基本方針

第九次中期事業計画（平成24～26年度）においては、酪農経営及び酪農生産基盤の維持・拡大に寄与するべく、以下の事項について全酪連と会員農協が一体となり酪農生産現場を中心とした事業を展開していくこととする。

組織運営の効率化と財務体質の強化

組織全体としての業務の効率化に取り組むとともに、子会社等も含めたグループ全体として管理部門の効率化・合理化を推進する。併せて積極的な事業を展開するために、自己資本の充実を図り、財務体質を強化する。

1 酪農生産環境整備の推進

酪農経営の安定と担い手確保に資する事業を展開するとともに、会員農協の機能強化の支援を行う。

2 酪農生産現場の生産性の向上

酪農家への経営指導、技術指導を充実させるとともに、安全・安心な酪農生産資材の安定的な供給体制を維持する。

3 酪農生産物の有利販売の強化

酪農家の収益向上のために酪農系

4 酪農生産環境整備の推進

全酪連の「組織理念」、「行動規範」と「全酪連の品質方針」に基づいた職務を遂行することで、重大な製品事故、企業不祥事等の発生を防止する。

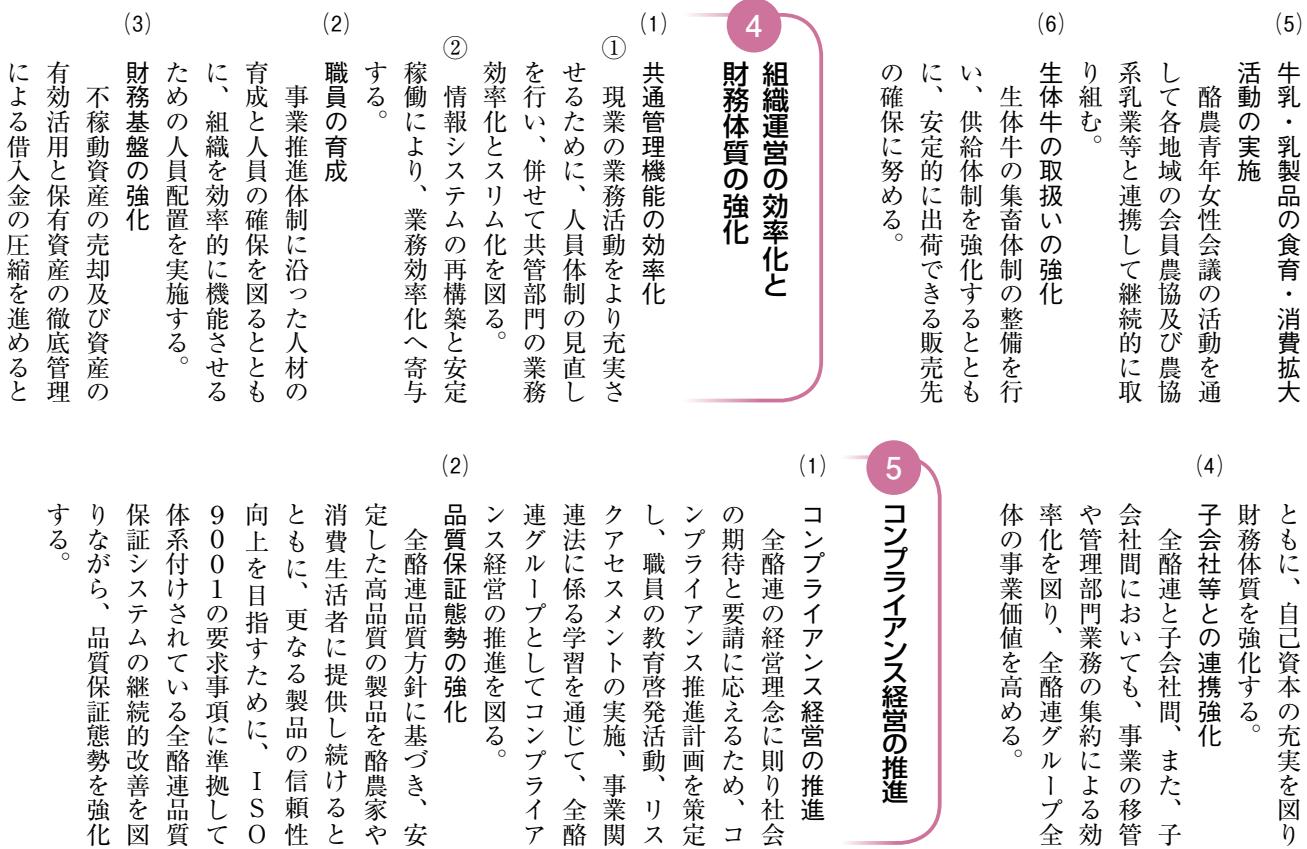
基本施策

5 コンプライアンス経営の推進

全酪連の「組織理念」、「行動規範」と「全酪連の品質方針」に基づいた職務を遂行することで、重大な製品事故、企業不祥事等の発生を防止する。

6 酪農生産環境整備の推進

(1) 酪農家戸数維持への取組み
① 総合的な経営指導体制構築・強化し、酪農家の経営体质



第九次中期事業計画

(1) 年度別売上高

(単位：百万円)

年 度	23年度 見込み	24年度 計 画	25年度 計 画	26年度 計 画
部 門				
酪農事業	10,445	10,376	10,408	10,442
購買事業	70,876	72,616	72,752	72,940
合 计	81,321	82,992	83,160	83,382

(2) 年度別経常利益

(単位：百万円)

年 度	23年度 見込み	24年度 計 画	25年度 計 画	26年度 計 画
経常利益	1,951	589	674	683

東日本大震災復興支援畜産フェア



3月3日(土)と4日(日)の二日間、畜産経営支援協議会主催により「東日本大震災復興支援畜産フェア」が有楽町イトシア前広場にて開催されました。

震災で大きな被害を受け、今なお原発事故による風評被害に苦しむ東北三県（岩手県、宮城県、福島県）の畜産・酪農について、現地産の食肉や牛乳の試食、試飲、販売を通じて消費者の理解を得るために企画されました。本会も社全国酪農協会と協力し、岩手県の「いわて奥中山高原牛乳」、宮城県の「蔵王発酵農家限定牛乳」、福島県の「酪王牛乳」の3製品を試飲用に1,500人分用意し、道行く方々に配布いたしました。3月とはいえまだまだ寒い風が吹きぬける中、はたして牛乳の試飲にどれだけの人があつまるか危惧していましたが、いざ始まると大きな人だかりができ、瞬く間に用意していた数量をお配りすることができました。

今回の活動が、少しでも被災地産食品に対する誤った風評を払しょくすることにつながり、現地の畜産・酪農が一日も早く復興することを切に願っています。



TPP反対運動に 酪農関係者約100名が参加



デモ行進の様子

演説では、まず山田会長が「何としてもTPPは阻止しなければならない」と反対していく強い意向を述べ、続いてニュージーランド・韓国・アメリカより来日した議員や大学教授らがそれぞれ演説を行いました。

1時間に亘る演説終了後、日比谷公園から国会を経由し、自民党本部前までデモ行進が行われ、「TPPを許さないぞ」「最後の最後まで戦うぞ」等と声を上げ、TPP反対を訴えました。

午後から行われたシンポジウムでは、演説を行った議員、教授らによる講演、意見交換が行われ、会場からの質疑応答では消費者や農業団体関係者から、政府に対する厳しい意見や要望も述べられていました。最後に山田会長の音頭により「がんばろう三唱」が行われ、閉会となりました。



▲ TPP反対を訴える山田会長(左)、中央はニュージーランドより来日したケルシー教授

平成24年度

計画生産について

平成23年度の計画生産の現時点の見通しは、東日本大震災や2年続けての猛暑の影響により、予想以上に生産回復が遅れたために、各指定団体から目標数量の減量が申請され、直近(2月末)時点の各指定団体への配分数量合計が計画生産目標数量7,314千t(供給目標数量6,792千t)に修正されました。

一方、平成24年度以降の酪農を取り囲む環境は、東日本地域においては震災からの復興過程にあることや、放射能問題による自給飼料の給与制限等の厳しい経営環境が継続していること、またTPP交渉への参加に向けた関係国との協議が開始される等、酪農生産者がわが国の農業政策の方針性に不安を抱き、生産意欲への悪影響や、今後の酪農生産基盤の脆弱化が危惧される状況にあります。

これからの状況を踏まえ、(社)中央酪農会議が策定した平成24年度の計画生産の考え方では、今後3年間は前年実績以上の目標数量の配分を行う「中期計画生産」の方向性が示されています。(図1)

次に平成24年度のJミルクの需給予測では、平成23年度比較的好調に推移した牛乳等向け需要量が従来水

ました。最近の計画生産では、需要に応じた目標数量の設定を行い、生乳需給の変動によって短期間に増減産の計画生産を繰り返してきましたが、今後複数年に亘って減産を行わない方針を定めるのは今回が初めてとなります。平成25、26年度の具体的な組み立て方は、これから協議となります。が、今後この中期計画によつて酪農生産者が安心して生産する環境が整備され、個々の酪農経営の安定と生乳生産基盤の維持・強化につながることが期待されます。また、平成24年度以降の牛乳製品需要に対しても、消費生活者に対し国産乳製品が安定的に供給され、これ以上の国産乳製品需要の喪失を食い止めることが期待されます。

尚、平成24年度計画生産対策の具体的な内容は、①基本枠となる販売基準数量、②特定乳製品向け又は需給緩和時の過剰回避対策を要件とする特別調整乳数量、③チーズや輸出等、新規需要向けの選択的拡大生産数量、の3つの総計となります。特に①は、これまで需要量から算出した各指定団体に配分されておりました

(表1) 24年度 国产生乳需要量の見通し(バターベース)

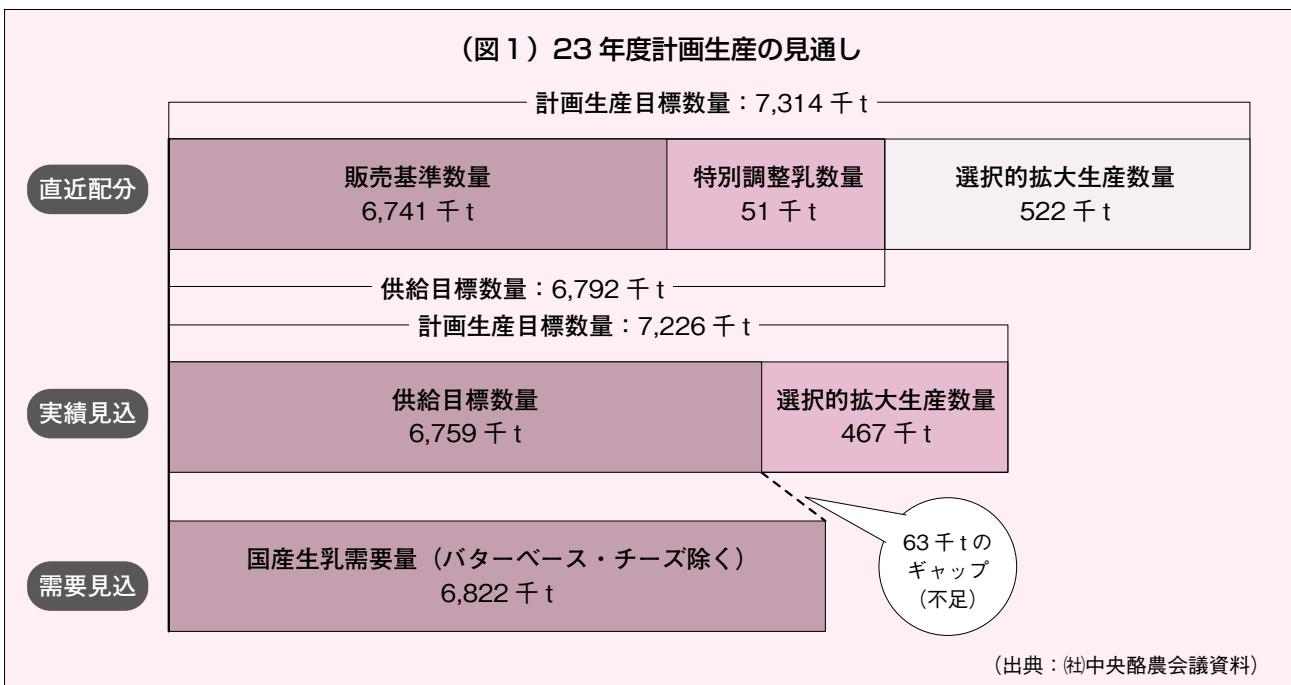
単位:千t

	国产生乳需要量					
	牛乳等向		乳製品向			
	前年比	前年比	前年比	前年比		
23年度	7,493	95.2%	4,067	99.0%	3,426	91.2%
24年度	7,561	100.9%	3,966	97.5%	3,595	104.9%

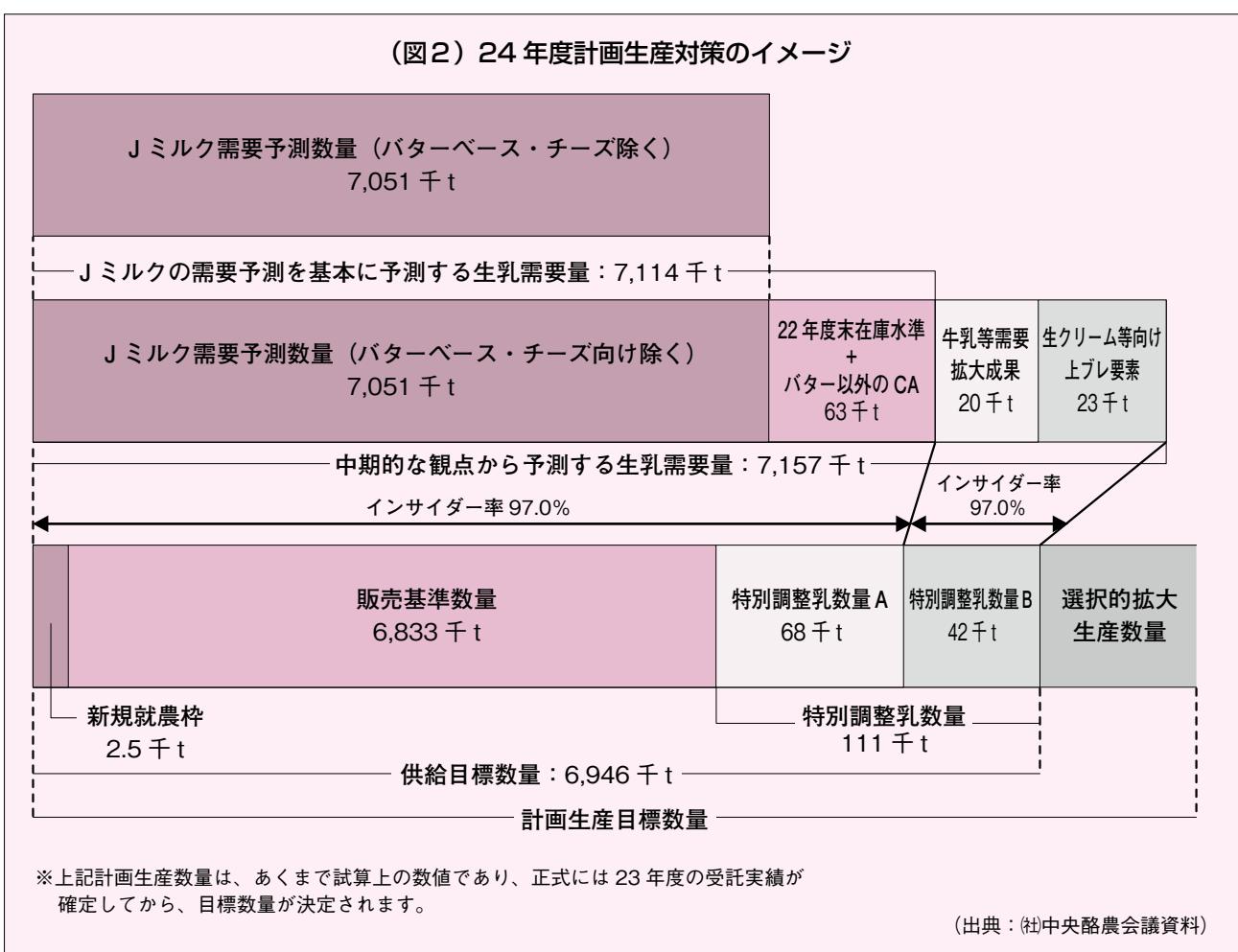
(出典: Jミルク公表資料)

はJミルクの需要予測(バターベース)を基本に、(社)中央酪農会議が中期的観点から予測する生乳需要の増加分を加味して設定されています。(図2)

(図1) 23年度計画生産の見通し



(図2) 24年度計画生産対策のイメージ



私は酪農ができて本当にラッキーです

4月の嫁

鹿児島県酪農業協同組合 大渡 恵さん

平成24年度1人目に紹介するお嫁さんは、鹿児島県酪農業協同組合に所属している大渡 恵さんです。



嫁

正月

が語る

酪農の魅力

(7)

——大渡弘男牧場の概要を教えてください。

大渡弘男牧場は南九州市川辺町にあります。川辺町は薩摩半島のほぼ中央に位置しており、仏壇やメロンの生産が有名です。所属組合は鹿児島県酪農業協同組合です。

私の牧場では、フリーストールで搾乳牛57頭、乾乳牛2頭、育成牛42頭を飼養しており、自給飼料としてデントコーンやイタリアンライグラスを作り、給与しています。

——現在の家族構成と主な仕事を教えてください。

父（弘男さん）、母（マリ子さん）、夫（康弘さん）、長男（裕晴くん・9歳）、次男（弘晴くん・7歳）、長女（彩也華ちゃん・4歳）、三男（健晴くん・8ヶ月）と私（恵さん）の8人家族です。私は主に会計等簿記や掃除や餌やり等の一般管理を担当しています。また、夫が酪農をしながら獣医師としても開業しており、私も獣医師の資格を持っているので、手術等の際は助手として同行するこ

ともあります。

——結婚までの経緯と決め手を教えてください。

私は日本大学の獣医学科の同級生で、同じ臨床繁殖学研究室に所属していました。

大学時代の夫のあだ名は「隊長」でした。何故そのようなあだ名だったかというと、彼が何でもでき、正に隊長のような存在だったからです。そんな彼は同級生ではありますたが、私にとって憧れの存在でした。

私は、高校時代に牛を好きになりました。牧場に興味があったのですが、その牧場に関して何でもできる彼にとても惹かれていき、大学4年の時にどちらからともなく付き合うようになりました。

その後、順調に二人の関係は進んで行き、大学を卒業しました。私は、大学を卒業後2年間青年海外協力隊でアフリカ（タンザニア）に獣医師として行くことになりました。その際、夫が私の実家（東京）に挨拶に来てくれて、私がアフリカから帰つて来てからという条件で両親に決め手は夫です。

12月に私は帰国したのですが、2月には籍をいれていました。結婚の



▲恵さんの愛する牛たち

——結婚当時の酪農に対する思いと

苦労したこと

それが精神的に辛かつたですね。

また、苦労したことは「簿記」で

すね、これは本当に苦労しました。

酪農を始めた当時は、たくさん勉強してバリバリ働きたいという思いがありました。でも、子供ができると思うように働けないんですね。やはり朝夕の搾乳の時間は子供から目を離すことができない、家族の皆が忙しく働いているのに、私は子供の面倒をみているので手伝えない、

簿記について何も分からぬし、牧場に關しても全くの素人だったので、手探り状態の作業でした。

例えば、「チモシー」をいくら分買つたというメモがあつて、それが薬品なのか、飼料なのかということさえも分かりませんでした。それを二つずつ覚えるのは本当に苦労しましたね。

飯を食べたりできますし、サラリーマンの家庭と比べて、家族と一緒に過ごす時間がはるかに多いと思います。その中で、子供がのびのびと育ってくれることも魅力の一つですね。牛舎で作業の手伝いをしているからだと思うのですが、学校でも仕事を率先してすることができる、人に優しくできる、感性豊かな子に育つてくれています。

牛舎の中で子供が自ら成長していくところに感じます。

牛の出産を間近に見ることができるもの大きな魅力ですね。このような仕事でなければ体验できることは無いですからね、子供にとっても親にとっても本当に貴重な体验だと思います。このような体验を多くの子供たちにさせてあげたいと、

——今思う酪農の魅力

小学校や幼稚園の子供たちを呼んでお産を見せてあげたりもしています。子供たちからは「いつも見れて良いな」と羨ましがられます。

そして、何よりの魅力は牛たちに開まれて仕事できることですね。私は牛がペットの様に可愛いんです。学生時代なんかは一緒に寝たりするぐらい可愛いっていました。

あと、牛乳をたくさん飲めることですね、牛乳好きとしてはたまりません（笑）。

私はこの仕事につくことができて本当にラッキーだと思います。私にとって酪農は、辛いことも多いですが、それを超えるほどの楽しみがある仕事です。

今後の夢



左から、康弘さん、健晴くん、恵さん



▶ 大渡弘男牧場の全景

牛舎の中では牛舎で作業の手伝いをしているからだと思うのですが、学校でも仕事を率先してすることができる、人に優しくできる、感性豊かな子に育つてくれています。牛舎の中で子供が自ら成長していくところに感じます。

牛の出産を間近に見ることができるもの大きな魅力ですね。このような仕事でなければ体验できることは無いですからね、子供にとっても親にとっても本当に貴重な体验だと思います。このような体验を多くの子供たちにさせてあげたいと、

(K・T)

農山漁村女性・シニア活動表彰 農林水産大臣賞を受賞！



開会挨拶をする結城副委員長

活動表彰、農山
漁村女性・シニア
活動表彰、農山

平成24年3月8日㈫、「きゅりあん品川」において開催された、第25回「農山漁村女性の日」記念の集いにおいて、農山漁村女性・シニア活動表彰女性地域社会参画部門 農林水産大臣賞を受賞された全国酪農青年女性会議 浦久美子委員(石川県)へ表彰状が授与され、その活動報告がありました。

この集いは、毎年3月10日の「農山漁村女性の日」に合わせ、農山漁村女性の役割を正しく認識し、適正な評価への気運を高め、女性の能力の一層の活用を促進することを目的として開催されており、全国酪農青年女性会議は主催団体のひとつとして参加しています。

集会は全国酪農青年女性会議 結城副委員長による「厳しい状況であるからこそ、男性も女性もなぐ、みんなで協力し合い、明るい未来に向けて共に頑張っていきましょう」との主催者挨拶に始まり、農山漁村女性・シニア活動表彰、農山



▲活動報告の様子

漁村男女共同参画 優良活動表彰の賞状授与及び活動報告と、料理研究家枝元なほみさんにによる講演が行われました。

大臣賞を受賞し

た浦さんは、酪農青年女性会議等の各種協議会や団体の長を務めており



▲表彰式の様子・浦さん(右)と仲野農水産大臣政務官(左)

パワーポイントでスライドショーの最中に指定のページにジャンプする (動作確認:PowerPoint2003,2007,2010)

ちょっと役立つ パソコンの小技

パワーポイントによるスライドショーの最中、時間の都合上、内容を端折るべく、例えば現在の10ページ目から30ページ目までジャンプしたいとき、矢印キーを早業で20回押せば当然たどり着くことはできますが、もう少しスマートに、「30」「Enter」と入力すれば画面には即座に30ページ目が表示されます。同様に最初のページまで一気に戻りたいときは、「1」「Enter」と入力すれば1ページ目が一瞬で表示されます。

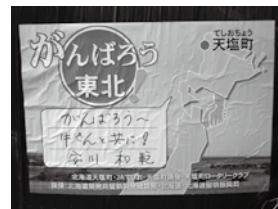
さらに似たような技として、「B」キーを押すと画面が真っ黒に、「W」キーで画面が真っ白になります。何らかの事情で一時的に画面を隠したいときに利用してみてください。なお同じキーを押せば元の画面に戻ります。



福島県酪協より

北海道天塩町・JAてしお「友愛牧草」が 福島県内の酪農家へ届けられる!!

「東日本大震災・原発事故に伴う
飼料支援事業引渡しセレモニー」を開催!!



ローラー一つに、「がんばろう
東北！」のステッ
カーが貼られ、心
温まる応援メッ
セージも書き加
えられていた。

2月13日(月)、いわき市小名浜港藤原埠頭において、北海道天塩町浅田弘隆町長、天塩町議会石山直継議長、JAてしお佐藤博幸組合長、福島県酪農団体協議会但野忠義会長をはじめとした関係者が出席し、「東日本大震災・原発事故に伴う飼料支援事業引渡しセレモニー」が執り行われました。

東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により、酪農家自らが生産収穫した牧草から放射性セシウムが検出され、給与制限を受け、代替飼料手当を余儀なくされています。そのような中、北海道天塩町が「東日本大震災に伴う飼料支援事業」により、天

塩町、留萌開発建設部、留萌振興局、天塩町議会、天塩町ロータリークラブ等、多数の関係箇所の後援のもと、JAてしお管内の酪農家130戸より牧草の寄贈も頂き、乾牧草（1番草）約350kg 100個、牧草サイレージ約500kg 350個、飼料用とうもろこしサイレージ約900kg 52個、合わせて502個の飼料を届けて頂きました。また、天塩港から小名浜港までのチャーター船、小名浜港から県管内指定場所18中継地までのトラック等の輸送費等、約1,649万円を支援事業にて天塩町が負担し、心温まるメッセージとともに、ご支援頂きました。（W.H）



▲ 天塩町・JAてしお「友愛牧草」引渡しセレモニーに出席した関係者（左より、福島県酪農協 角田常務、天塩町議会 石山議長、JAてしお 佐藤組合長、福島県酪農団体協議会 但野会長、天塩町 浅田町長、しゃくなげ酪農協 阿部組合長、小野町地区酪農協 根本組合長、国土交通省東北地方整備局小名浜港湾事務所 西尾所長）



佐藤JAてしお組合長
より、友愛牧草の寄
贈者を代表して、激
励の言葉と寄贈者名
簿を但野酪農団体協
議会長へ引渡す



▲ 浅田天塩町長より、友愛牧草支援にあたっての経緯と挨拶



▲ 地元福島県を代表して、但野酪農団体協議会長が御礼の挨拶



▲ 友愛牧草支援にあたり、引渡しセレモニーに出席する天塩町関係者並びに、福島県内の関係者。テレビ局各社、新聞各社も友愛牧草支援の取材に訪れ、県内のニュースとして、放送され、新聞にも掲載される。



◀ 乾牧草、牧草サイレージ、とうもろこしサイレージ合わせて502個、天塩町・JAてしお、関係者の皆様の温かいご支援に誠にありがとうございました。

仙台
支所発

「若い女性の会」が開催される！ —山形県酪農協—

3月2日(金)に山形市「ホテルメトロポリタン山形」にて、山形県酪農業協同組合(原田陽一代表理事組合長)主催の「若い女性の会」が、初めて開催されました。

原田組合長は、挨拶の中で「山形県酪農協は、地域循環型酪農(耕畜連携を中心とした自給粗飼料の生産)、ハセップ認証制度(安全・安心な高品質な生乳生産)、人材育成(新規就農者への支援、高齢酪農家の安心対策等、10年後の酪農を見据えた対策としての「人づくりプロジェクト」)を大きな柱として事業を展開しています。そして、今日のこの会は、「人づくりプロジェクト事業の一環として、将来の酪農を担っていく管内の若い女性の皆さんに、酪農に関する情報のみならず様々な分野の情報と仲間との触れ合う機会を提供することを目的として開催しました」と述べられました。その後、堀田専務による講師紹介の後、講演会に入りました。

「経営の中での女性の役割」と題し、(株)セゾンファクト

リ代表取締役社長 齋藤 峰
彰氏による講演がありました。

齋藤社長は、「本物にこだわった商品開発を進め、人間性の向上と人格の形成に力を入れ、人間力で世界に通用する食品のスーパー・ブランドの会社を目指している。また、社員に対しては、①嘘はつかない ②人の嫌がることはしない ③仲間や家族に感謝する ④地域社会に貢献する事を求めている」と話されました。

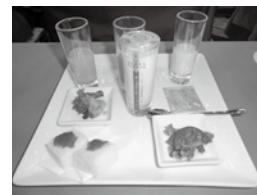
また、参加している女性に対して、「男は口マンを求めて現実から乖離する傾向にあるので、現実に立脚して、どんどんと発言していくって欲しい」と話されました。

研修会講演終了後は会食となり、参加者全員が美味しい料理とスイーツに舌鼓をうちながら楽しい会話に日頃の疲れを癒していました。

(N.T)



齊藤
講師



▲ Tasting Menu

原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先 皆様のお近くにあります本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003
札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター5階
tel. 011-241-0765

■名古屋支所

〒465-0095
名古屋市名東区高社1-89 第2東昭ビル2階
tel. 052-771-7104

■仙台支所

〒980-0021
仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル3階
tel. 022-221-5381

■大阪支所

〒532-0011
大阪市淀川区西中島5-14-10 サムティ新大阪フロントビル6階
tel. 06-6305-4196

■東京支所

〒108-0014
東京都港区芝四丁目17番5号 田町プレイス5階
tel. 03-5931-8011

■福岡支所

〒812-0016
福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階
tel. 092-431-8111

東京
支所発

第21回関東甲信越酪農専門団体協議会通常総会 並びに研修会開催

3月9日(金)東京都港区のアジュール竹芝において、東京支所管内関東甲信越酪農専門団体協議会(会長:茨城県酪農業協同組合連合会 代表理事 会長 大槻和夫氏)の第21回通常総会並びに研修会が、総勢35名で開催されました。

開会に先立ち、昨年の東日本大震災により亡くなられた方々に哀悼の意を表し、黙祷を捧げました。

大槻会長は開会挨拶にて、「牛乳は無くてはならないもの、そして安全なもの」であることを呼び掛けていたい」とし、消費者による放射能への不安感払拭に向けて、消費拡大のための積極姿勢を示されました。

また、来賓の弊会坂本専務より、牛乳・乳製品並びに自給飼料等の放射性物質汚染対策に積極的に関係機関に働きかけて行くこと、TPP参加問題については全国連として酪政連・関係団体とともに反対運動を展開して行きたいとの挨拶がありました。

総会では、大槻会長を議長に選出し、4つの議案について協議し、賛成多数によりすべての議案が可決されました。

総会終了後は、福島県酪農業協同組合 代表理事 組合長 但野忠義氏を講師に「東日本大震災からの復興について」をテーマに研修会を開催しました。



▲ 大槻会長によるあいさつ



▲ 但野組合長(福島県酪農協)

研修会では、東日本大震災発生当初の想像を絶するご苦労、「助け合う事により改めて考えさせられた」という組織の力の重要性と細やかな心遣いが大切であるとのお話をエピソードを交えて頂きました。その一方、今なお続く風評被害、特に消費者が食品を購入する際に、産地を判断材料にする傾向に強い懸念を示され、「消費者の方々へ安全性を訴える必要がある」と力強く訴えられました。

更に、福島県の将来展望として「放射能等の検査体制の強化」「組織統合による組織力強化」「団地化による共同企業体への礎の構築」「教育ファームによる消費者との関係形成、生産者の経営感覚向上」等、現在酪農経営を再開できない方々への対応策を含め、積極的に前進する旨のお話をいただきました。

研修会終了後は懇親会が開催され、東毛酪農業協同組合 代表理事組合長 大久保 克美氏のご発声により、牛乳で乾杯し、参加者相互の団結力を深めました。

本総会並びに研修会では、放射性物質汚染問題・TPP参加反対に対し、強い姿勢で取り組む必要があることが改めて確認されました。今後も当協議会ではこうした問題に対し、会員相互の情報交換を行い、積極的に取り組んでいきます。 (T.K)



▲ 但野組合長による研修会



牛乳で乾杯(画面中央に但野組合長、左に大久保組合長)

名古屋
支所発

岐阜県酪農青年女性会議酪農発表会 及び酪農講座の開催

2月24日(金)、岐阜県関市において、岐阜県酪農青年女性会議の発表会「聞いて、学んで、儲かる酪農塾」が開催されました。

岐阜県酪農農業協同組合連合会、岐阜県酪農青年女性会議、(社)岐阜県畜産協会の共催で行われ、約80名の出席がありました。

(社)岐阜県畜産協会の自給飼料共励会表彰式・体験発表では、富加町で営農されている生駒一成さんが表



▲下堂前さん



▲コーディネーターの大井委員長

彰され、自給飼料への取組みについての発表がありました。

続いて、第41回中部酪農青年女性会議酪農発表大会に出場される下堂前まさるさんの発表が行わ

れ、セミナーでは岡山県において営農している松崎まり子さんが発表されました。

最後に、儲かる酪農塾と題して、パネルディスカッションが行われ、今後の酪農形態について熱い議論が交わされました。

当日は、牛乳や乳製品、松崎牧場のジェラートや岐阜県内で6次産業に取り組まれている川瀬牧場、猿渡牧場のジェラートが参加者に振る舞われ、美味しいという感想が多く聞かれました。

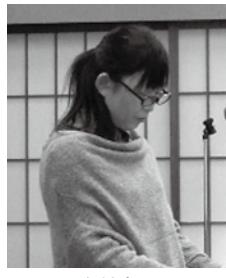


▲開会にあたり挨拶される馬瀬口会長

福岡
支所発

平成23年度ながさき県酪農業協同組合女性部 一泊研修会

ながさき県酪農業協同組合女性部(川田美子 女性部長)主催の「平成23年度ながさき県酪農業協同組合女性部一泊研修会」が、2月23日(木)～2月24日(金)に長崎県雲仙市の「春陽館」において開催され、酪農女性部員及び関係者等、51名が参加しました。



▲川田女性部長による主催者挨拶



▲ながさき県酪農 山下組合長による来賓挨拶

この会は、長崎県の酪農を支える女性の方々に知識と親交を深めてもらいたいという目的で毎年開催されており、年ごとに内容を変え、様々な研修会を行っています。

開会式は、主催のながさき県酪農業協同組合女性部 川

田美子 女性部長による主催者挨拶の後、長崎県農林技術開発センター 室長 川口雅彦氏、ながさき県酪農業協同組合 代表理事組合長 山下俊忠氏による来賓挨拶と進行しました。

研修会では、本会福岡支所 長崎駐在の永井職員により「毎日の哺育・育成管理と搾乳作業」と題して講演がありました。

研修会中は、皆熱心に話を聞いておられ、研修会終盤の質疑応答では、女性部の方々から多くの質問が挙げられていました。

夕方からは、懇親会が開催され、皆日頃の疲れを吹き飛ばすかのように盛り上がり、楽しい時間を過ごしていました。

1泊2日という短い日程ではありましたが、ながさき県酪農業協同組合女性部の皆様のパワーとエネルギーを感じられた研修会でした。

(K.T)

見て歩紀



No.227
柴田牧場
北海道興部町

▲ 柴田牧場の皆さん
(寛子さん、良章さん、重男さん、和子さん)

子供もみんな牛が好き! 大家族酪農



柴田家の子供達(長女の瑞姫ちゃん、長男の一毅くん、次女の寧々ちゃん、次男の頼人くん)

農協が合併し、総組合員は248戸、出荷乳量は85,823t(平成24年2月に興部町農業協同組合とおうむ農業協同組合の2

部に位置する町で、オホーツク海沿岸部に位置し、酪農と漁業の町です。夏は比較的冷涼な気候ですが内陸部ではしばしば真夏日を記録します。また、冬に流水が接岸するようになると氷点下30℃を下回る全国有数の極寒地です。夏冬の温度差は最大で60℃ある厳しい環境ですが、この寒暖差が牧草とおいしい海の幸を育んでくれます。

柴田牧場が所属する北オホーツク農業協同組合(真坂圭一代表理事組合長)は平成24年2月に興部町農業

経営概況

成22年度実績)となっています。酪農と畜産と主力產品が重なる農協同士の合併で経営基盤の強化を図る事が期待されています。

柴田牧場の家族構成は、良章さん(32歳)と奥さんの寛子さん(34歳)、寛子さんのご両親の重男さん(68歳)と和子さん(65歳)、長女の瑞姫ちゃん(11歳)、長男の一毅くん(9歳)、次女の寧々ちゃん(8歳)、次男の頼人くん(4歳)、三男の永久くん(3・5ヶ月)の9人家族です。平成24年1月に中澤重男さんから義理の息子の柴田良章さんへ経営移譲され、良章さんと寛子さんご夫婦と、重男さんと和子さんの2夫婦で生乳生産とホルスタイン育成販売を営んでいます。現在、経産牛82頭、自家育成牛60頭を飼養しています。平成23年の年間生乳出荷量は

地域の概況



742t、一頭あたりの乳量では約9,500キロです。

牧場の歴史

柴田（旧 中澤）牧場は昭和46年に岐阜県から北海道へ入植し、良章さんで2代目になります。入植当時は乳牛35頭のスタンチヨン牛舎（58牛床）で当時としては大規模農家だったそうです。その後徐々に牛舎を増築し、昭和47年にビニールハウスで育成舎を建てましたが、風に飛ばされてしまい、幾度となく補修を繰り返し、昭和57年に念願の育成舎を建設。昭和61年に、繫ぎ牛舎の改築・増設を行い、現在の82頭牛床になりました。同時にニューヨークタイ式トールへ変更し、スラリータンク

今から20年前、重男さんがデンマークへ酪農家視察に行つた際、自動給餌機を初めて見ました。夫婦2人で酪農を行う中で労力の軽減をずっと考えていた重男さんは、自動給餌機の導入を決めました。

その後、地元の酪農機械を扱う会社と協議を重ね、今から17年前、このメーカーでは日本で初めてとなる自動給餌機を導入しました。日本で導入した農家第1号という事もあり、周囲の農家の方が大勢見学に来ました。しかし、機械を導入してから問題続きで、動かなくなる事もしばしば…。時には導入元の機械メーカーの人達が24時間体制で機械のメンテナンスに来ていました。正常に動くようになつたのは導入後、半年経つてからの事でした。そんな苦労をして取り付けた機械を本場デンマークの会社の社長が現場視察に来た事もあったそうです。

を建設、現在に至ります。

自動給餌機の導入

◀ 搾乳の様子



▶ 生舎内
◀ 生舎景観

元々、重男さん夫婦のお子さんは女性だけでした。当初の予定では重男さんが引退後、誰かに当牧場を譲るつもりだったそうです。そこに三女の寛子さんの夫、良章さんが後継者として名乗りを上げました。それまで良章さんは札幌市で理容師として従事する身で、酪農とは無縁の世界で働く人でした。年に2、3度興部町へ子供達を連れて遊びに来た際、重男さんの牛舎作業を手伝う事をきっかけに酪農の世界に足を踏み入れました。

良章さんの就農

元々、重男さん夫婦のお子さんは女性だけでした。当初の予定では重男さんが引退後、誰かに当牧場を譲るつもりだったそうです。そこに三女の寛子さんの夫、良章さんが後継者として名乗りを上げました。



▶ 良章さん



長男の一毅くん

良章さんは、酪農に従事して3年目ですが、後継者として中澤重男さんから継いだ牛舎・牛達を立派に引き継いでいる様に繁殖管理、乳房炎の牛を出さないよう、搾乳手順の徹底等を心がけています。出荷する牛乳に対する品質を一番に考えており、生産者としての誇りを持っています。

それから良章さんは理容師の休みを利用して1年間毎月、興部へ来て牛舎作業を手伝うようになり、酪農業へと一步踏み出しました。トラクターの作業を見てから、その考えは変わり始めました。

それから良章さんは理容師の休みを利用して1年間毎月、興部へ来て牛舎作業を手伝うようになり、酪農業へと一步踏み出しました。トラク

タ等、機械の乗り方等は重男さんに教わり、搾乳は和子さんからみつかりと作業を通じて学んでいきました。その時、良章さんは一生懸命作業している中澤さん夫婦を見て、この農場を継ぎたいと心から思ったそうです。「自分で搾った牛乳が消費者の皆の口に入るのだと思った時、生産者としての生き甲斐を感じた」といいます。

家族のことだわり

和子さんは牛舎作業を良章さん達に引き継ぎ、趣味である当牧場で搾った牛乳を使ったチーズ作りを行っています。チーズ室等かなり本格的な施設、機械から作られるチーズは趣味の域を超える味わいです。

今後の目標について

良章さんは、規模拡大を考えていよいといいます。重男さんから受け継いだ牛舎を出来るだけ長く持たせたいと考えています。その為に、牛の観察、酪農における新しい取組み等、様々な酪農家・牛舎を見て経営に活かせたらと考えているそうです。

最後に

今回ご多忙の中、快く取材に応じて頂き感謝申し上げます。柴田牧場の皆さんとはとにかく牛が好きで、特に良章さんのお子様達が積極的に

搾乳や子牛への哺乳等見ていると、酪農の未来は明るいと感じました。TPPや後継者不足で悩まされる現代の情勢を踏まえると非常に嬉しく思いました。いつも前向きな姿勢で、牛の事を常に考えて、行動を起こしています。きっとそこからあの洞察力が生まれたのだと思いました。

今後も柴田牧場のより一層のご発展を心よりお祈り申し上げます。

(Y・K)



寧々ちゃん



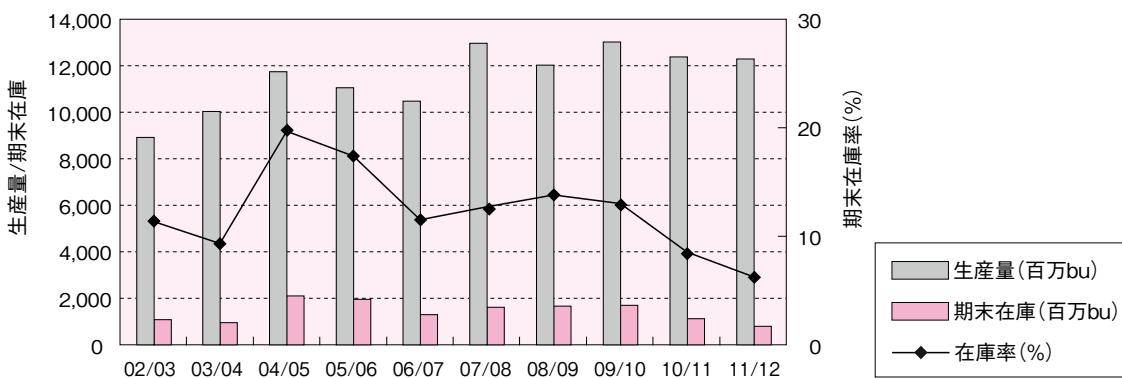
瑞姫ちゃん

原料情勢

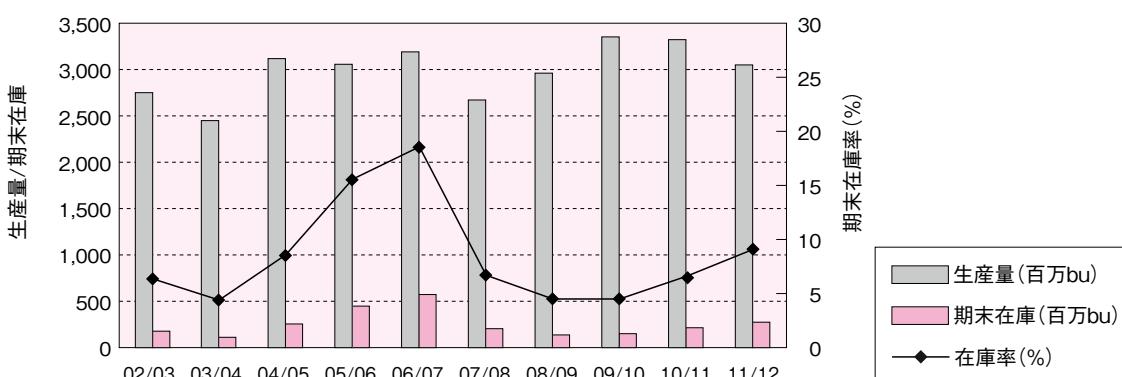
平成24年3月

3月9日発表 米国農務省トウモロコシ 需給予想	【10/11年産】 作付面積88.2百万(前月88.2百万)エーカー、単収152.8(152.8)bu/エーカー、生産量124億4,700万(124億4,700万)bu、総需要量130億5,500万(130億5,500万)bu、期末在庫11億2,800万(11億2,800万)bu、在庫率6.3(8.6)%。
	【11/12年産】 作付面積91.9百万(前月91.9百万)エーカー、単収147.2(147.2)bu/エーカー、生産量123億5,800(123億5,800)bu、総需要量126億7,050万(126億7,050万)bu、期末在庫8億100万(8億100万)bu、在庫率6.3(6.3)%。
トウモロコシ相場動向	今後のシカゴ相場は、やや強含みの展開になるものと思われる。3月末に米国産コーンに関して3月1日現在の在庫発表があり、その結果が今後の展開に大きく影響を与えるものと思われる。
国内産大豆粕	国内需給については、国産大豆粕発生量は依然低調で数量に大きな変化は見られないが、輸入大豆粕が順調に入船しており現時点では受け渡しには問題ない見込。価格については、一方的に値を上げている。また、最近は輸入大豆粕の現地価格がシカゴ相場以上に上昇しており今後の動きに注意する必要がある。
穀糖類	一般ふすまは、配合割合はやや減少していると思われる。小麦の挽碎量は相変わらず低調な様子であるが、しばらくは受け渡しには問題ない見込。グルテンフィードは、配合割合は減少していると思われる。発生量は徐々に増加している様子。このため、在庫は適正な水準まで回復した模様。
海上運賃	海上運賃は、慢性的な船腹過剰により下げ基調であったが、期待以上に価格の下落に現れていない。また、ここにきて豪州石炭の価格下落にともない中国からの旺盛な需要があることや、3月/4月の南米の穀物需要見込みによりマーケットは上昇基調となっている。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成24年3月

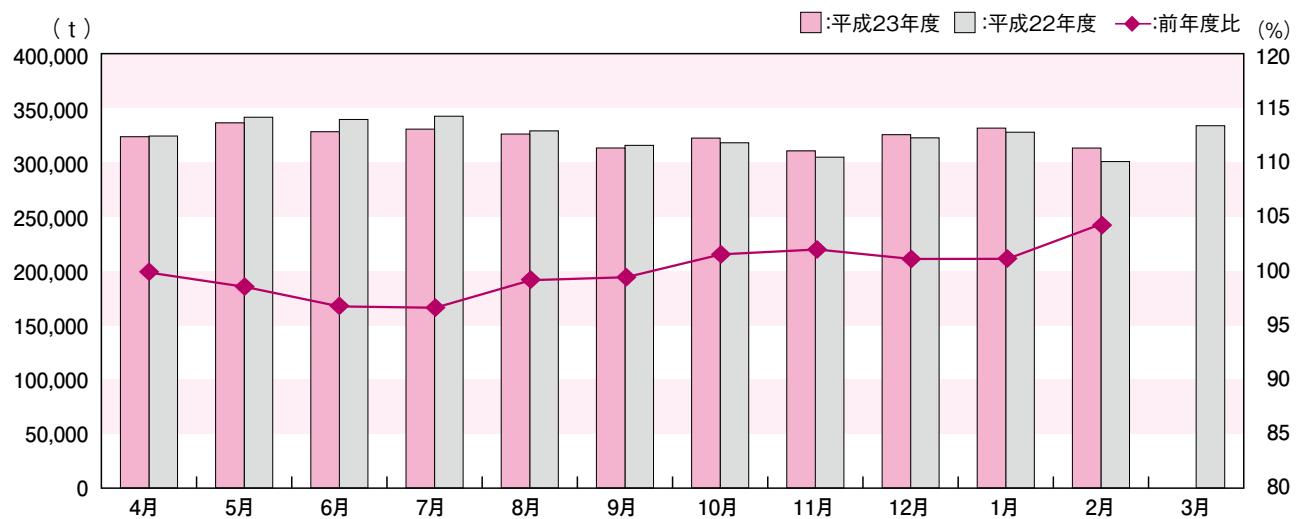
北米コンテナ船 フレート	WTSA 加盟の船会社から、再び4月1日よりGRI値上げ実施の発表がされた。また、4-6月分のBAFを\$38値上げするとの発表もされている。海上運賃は、昨秋から大きな値上げの動きはなかったが、中・長期的には強含みで推移することが予想される。秋以降に各船社で減船やサービスの改変があり、特にPNWでは現在も船腹スペースと空コンテナが不足している。船積み遅延も引き続き目立っている状況。
米国の乳価動向	昨年6月から値上げで推移してきた米国の乳価は、9月に入り値下げに転じ、10月もさらに値下げとなった。11月で少し回復したものの、12-2月はさらに値下げとなった。このままの価格帯で乳価が推移すれば、12年産では需要が軟化する可能性もあるとも一部では予想されている。
ビートパルプ	【米国産】11年産ビート大根は、作付けの進捗が遅れ、10年産よりも20日ほど遅れて収穫が開始。その結果、作付面積は前年比で5%近く増加したものの、生産量は前年比で15%近くも減少すると見込まれている。需要は引き続き堅調なことから、11年産の産地価格は開始と同時に10年産よりも高値で推移している。12年産の作付けが、4月から5月にかけて行われる予定。
	【中国産】11年産のビートパルプは、10年産よりも作柄が良好と伝えられている。国内需要はさらに増えることが予想されているため、輸出向けは10年産に引き続き、かなり限定的となることが予想されている。
アルファルファヘイ	【ワシントン産】各サブライヤーとも、11年産の荷動きは順調な模様。今後は他の作物からアルファルファへの転作が増えて、穀類への転作が少ないことが一部では予想されている一方で、安定した収入が見込める穀類への転作が多いとも一部では予想されているため、12年産の作付面積の増減については様々な予想がされている。
	【オレゴン産】徐々に引合いは落ち着いてきたものの、産地での余剰在庫はほとんどない模様で、産地価格は引き続き強含みで推移している。米国乳価の影響によりアルファルファの価格も軟化することを懸念し、12年産の生産を抑え始める生産農家が出てくる可能性もあると一部では予想されている。
	【ネバタ産】引合いは落ち着いているようだが、11年産の余剰在庫はほとんどない模様。産地ではBIGベールでの収穫が12年産以降もますます増えることが予想され、今後も3タイのプレミアム品は生産量が減少する傾向にあると予想されている。
	【カリフォルニア産】産地での11年産の余剰在庫はほとんどない模様。2/15時点での作付面積は前年対比98%となっている。12年産の1番刈収穫が始まったが、一部の圃場で雨当たり被害を受けた模様。
チモシー	【米国産】11年産の荷動きは順調で、余剰在庫はほとんどない状況。豪州産11年産オーツヘイの状況から、日本だけでなく、韓国や台湾の顧客からも米国産チモシーの引合いが増えている模様。しかし、「これ以上の高値は期待できない」との考え方から、12年産の作付面積は減少すると一部では予想されている。
	【カナダ産】11年産の荷動きは順調で、ハイグレード品の余剰在庫もほとんどない模様。豪州産11年産オーツヘイの状況から、代替としてカナダ産チモシーの引合いが増えている。安定した需要から、12年産の作付面積は増えると予想される一方で、ドライランドでは11年産ローグレード品の未成約在庫もあることから、作付面積は減少するとも予想されている。
スーダン	【インペリアルバレー産】11年産の荷動きは順調で、余剰在庫はほとんどない状況。産地では小麦の作付けが進んでおり、2/15時点での作付面積は前年対比123%となっている。小麦の作付面積が増えるときは、価格は強含みに推移する傾向が例年みられる。また、種子不足から種子価格が値上がりし、生産農家の作付け意欲が低減しているとも伝えられている。一方で、豪州産オーツヘイの情勢から、12年産は強い引合いで開始すると予想されている。
クレイングラス	比較的安い価格帯となっているクレイングラスへの引合いは依然として強く、余剰在庫はほとんどない状況。そのため、産地価格は強含みで推移している。安定した需要から、12年産の作付面積は増えることが予想されている。2/15時点で、前年対比108%となっている。
バミューダ	バミューダヘイ、バミューダストローとともに強い引合いがあるため、輸出向け供給量は減少し、産地での余剰在庫はほとんどない模様。そのため、産地価格は強含みで推移している。12年産は11年産の繰越在庫がない状況下でスタートする見込みのため、今後も引き続きタイトな状況が続くと予想される。
ストロー類	11年産フェスキューは、良品の余剰在庫が少ないなかで、引合いもさらに強まっているため、産地価格は強含みで推移している。その影響により、ライグラス（ペレニアル種）の引合いも増えてきており、余剰在庫がほとんどない状況。年々減少しているフェスキュー・ライグラスの作付面積は、12年産も回復しないとの見方が強くなっている。今後も引き続きタイトな状況が続くと予想される。
オーツヘイ	【西豪州産】雨当たり被害が大量に発生し、深刻な事態となった。中でも分析値の良いハイグレード品については、かなり限定的な数量となっている。11年産は雨当たりのローグレード品が大量に発生する結果となったが、韓国向けに少しづつ船積みが増えてきている模様。
	【南豪州産】南豪州でも雨当たり被害が多く発生。西豪州ほど酷くはない作柄・状況であるが、中でもハイグレード品については、限定的な数量となっている。南豪州でも、船積みが増えてきている模様。しかしながら、アデレード港（南豪州）出しの船積みスペースのタイト感は顕著で、恒常化している。
	【東豪州産】ここでも雨当たり被害が多く発生。南豪州よりも作柄・状況は悪くない模様であるが、中でもハイグレード品については、限定的な数量となっている。この地域は豪州内で最大の酪農・肥育の生産州で、ローグレード品を中心に国内向けの引合いも強くなっている模様。

平成23年度（2月） 地域別生乳生産量

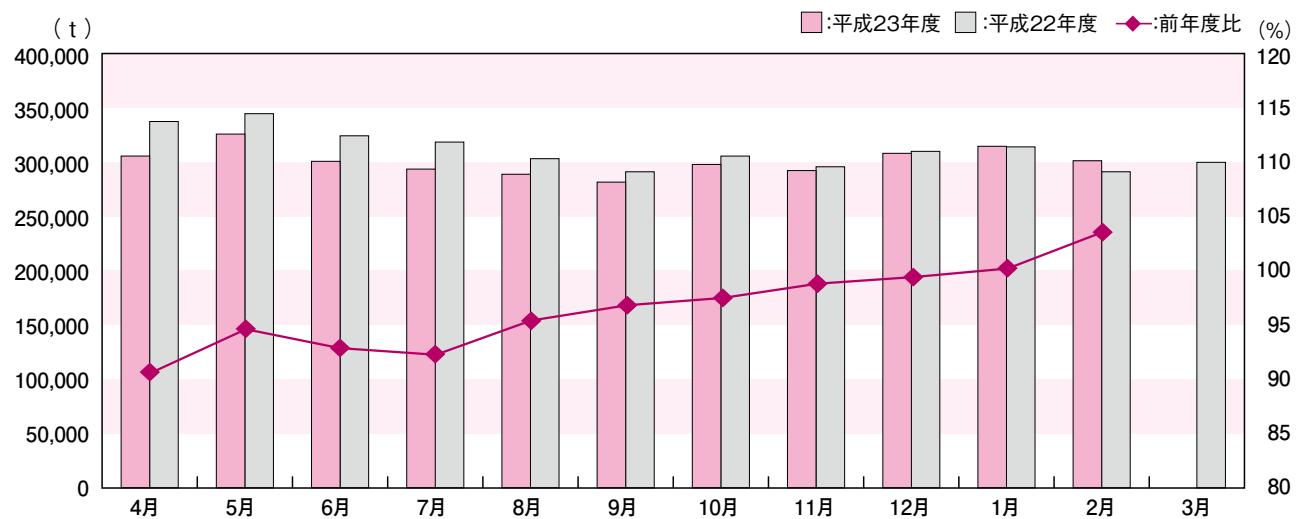
単位：t

	全 国	北 海 道	東 北	北 陸	関 東	東 山	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
22 年度 2 月	591,460	300,485	49,135	8,301	86,294	10,298	31,730	16,199	23,639	11,160	52,094	2,125
3 月	633,178	333,487	37,250	9,365	85,702	11,482	35,953	18,426	26,825	12,663	59,613	2,412
23 年度 4 月	628,833	323,368	43,133	9,188	88,938	11,210	35,422	18,134	26,388	12,438	58,169	2,445
5 月	661,818	336,125	50,251	9,474	97,497	11,746	36,169	18,439	27,407	12,648	59,547	2,515
6 月	628,574	327,964	47,467	8,678	89,927	11,199	33,209	16,713	25,181	11,497	54,408	2,331
7 月	623,805	330,363	47,146	8,259	87,626	11,259	32,171	16,385	24,631	10,943	52,721	2,301
8 月	614,552	325,838	48,003	8,025	85,889	11,088	31,040	16,162	24,107	10,659	51,538	2,203
9 月	594,466	313,005	47,323	7,707	82,863	10,857	30,317	15,519	23,565	10,534	50,642	2,134
10 月	619,843	322,112	50,137	8,147	88,027	11,085	32,618	16,214	24,827	11,039	53,418	2,219
11 月	602,420	310,328	49,086	7,959	86,312	10,743	32,225	16,013	24,147	10,937	52,508	2,162
12 月	633,207	325,234	51,663	8,513	90,717	11,280	33,692	17,036	25,222	11,636	55,987	2,227
1 月	645,750	331,298	52,019	8,829	92,456	11,185	34,749	17,486	25,865	12,036	57,569	2,258
2 月	614,082	312,946	49,521	8,382	88,672	10,472	33,129	16,653	24,789	11,472	55,775	2,271
前年同月比	103.8%	104.1%	100.8%	101.0%	102.8%	101.7%	104.4%	102.8%	104.9%	102.8%	107.1%	106.9%
23 年度累計	6,867,350	3,558,581	535,749	93,161	978,924	122,124	364,741	184,754	276,129	125,839	602,282	25,066
前年同月比	98.1%	99.9%	92.0%	94.5%	95.7%	98.5%	98.2%	95.5%	97.8%	96.6%	99.8%	98.8%

北海道の月別生乳生産量



都府県の月別生乳生産量

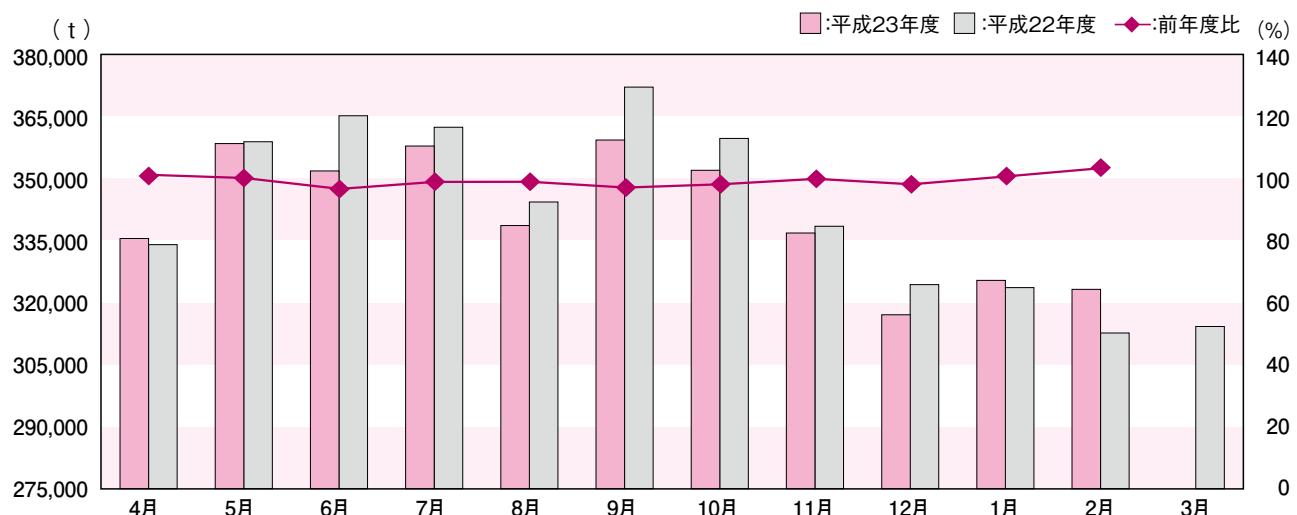


平成23年度（2月）用途別処理量

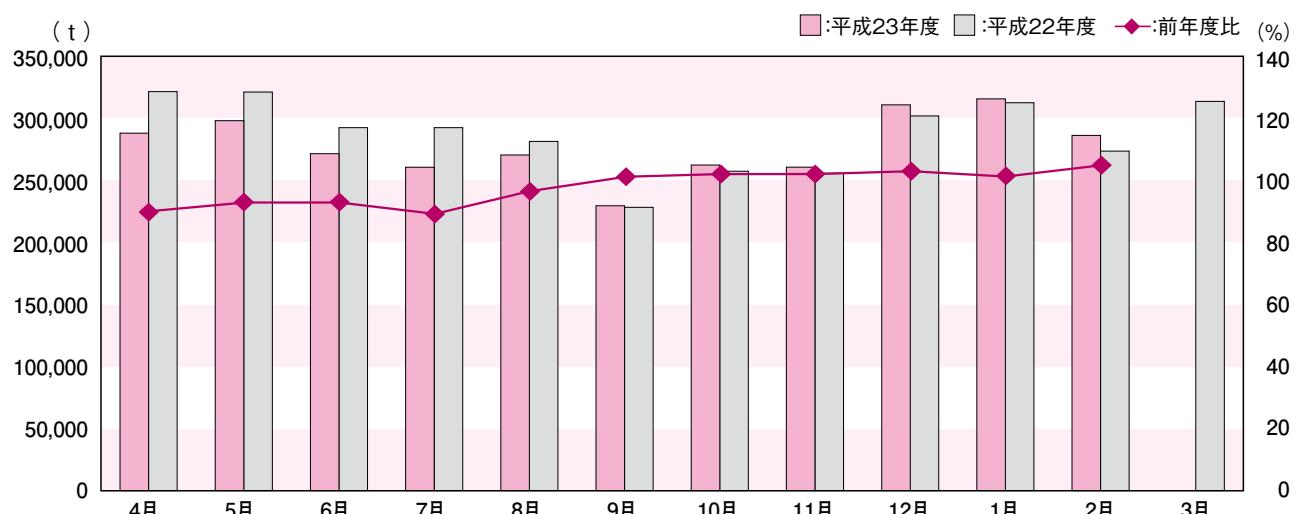
単位:t

	用途別処理量							
	生乳生産量	牛乳等向け	業務用向け	乳製品向け	チーズ向け	クリーム等向け	その他	欠減
22年度 2月	591,460	312,633	22,039	273,485	43,553	87,695	5,342	948
3月	633,178	314,206	19,911	313,529	44,805	84,570	5,443	1,553
23年度 4月	628,833	335,472	22,962	287,933	41,455	96,214	5,428	1,317
5月	661,818	358,410	26,317	297,991	43,325	98,744	5,417	1,002
6月	628,574	351,800	23,936	271,407	41,464	99,952	5,367	953
7月	623,805	357,820	21,463	260,499	40,080	106,648	5,486	1,054
8月	614,552	338,603	24,216	270,357	40,712	106,994	5,592	1,102
9月	594,466	359,270	27,189	229,452	32,181	104,967	5,744	1,192
10月	619,843	351,958	29,171	262,271	38,368	110,428	5,614	1,076
11月	602,420	336,798	29,374	260,547	38,338	108,557	5,075	886
12月	633,207	317,039	27,191	310,749	39,974	109,880	5,419	957
1月	645,750	325,351	24,812	315,558	46,565	96,795	4,841	1,002
2月	614,082	323,184	25,383	286,133	45,293	99,089	4,765	961
前年同月比	103.8%	103.4%	115.2%	104.6%	104.0%	113.0%	89.2%	101.4%
23年度累計	6,867,350	3,755,705	282,014	3,052,897	447,755	1,138,268	58,748	11,502
前年同月比	98.1%	99.0%	100.7%	97.3%	98.9%	105.7%	90.5%	69.8%

牛乳等向け処理量の推移



乳製品向け処理量の推移



※農林水産省統計部が公表した「牛乳乳製品統計」をもとに本会酪農部で集計した。

北海道 乳牛産地情報

平成24年4月1日現在

価格状況 ↑……強含み ↗……やや強含み →……横這い ↘……やや弱含み ↓……弱含み

札幌支所 TEL 011-241-0765
 鉾路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	29~35	↗	3月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で101.4%、累計で100.8%。苫小牧管内月計で100.9%、累計で96.5%の実績となっております。初妊牛の価格動向ですが、6月分娩が中心となり、府県需要もありますが初妊牛価格が高値を維持している事、また酪農情勢を考慮すると初妊牛価格は横這いでの取引となるものと思われます。育成牛、経産牛につきましても横這いで推移するものと思います。
	初妊牛	53~59	↗	
	経産牛	40~45	↗	
鉾路管内	育成牛(10-12月令)	30~35	↗	3月中旬までの生乳生産量前年比は、鉾路管内月計で100.7%、累計で99.5%。中標津管内月計で102.6%、累計で100.6%の実績となっております。初妊牛の価格動向ですが、7月分娩が中心となり、通常であれば価格についても下げの傾向ではありますが、導入助成等により高値維持での取引となる可能性があります。当地区では他地区より育成農家が少なく、主に酪農家からの取引が多いため、導入の流れも早いかと思いますので、購買予定がありましたら、早めの手配をお願いします。
	初妊牛	55~60	↗	
	経産牛	45~50	↗	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	30~35	↗	3月中旬までの生乳生産量前年比は、月計で101.0%、累計で100.2%の実績となっております。4月の初妊牛価格の動向ですが、府県の春産み需要は落ち着きますが、府県からの導入は依然として続き、価格は横這いで推移するものと予想されます。F1腹・ホル腹の価格差は少なく、牛なりに沿った価格となっている状況です。また、雌雄選別腹は、資源が少ないため、引き合いが強い状況が続くことが予想されます。
	初妊牛	55~60	↗	
	経産牛	45~50	↗	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25~30	↗	3月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計99.8%、累計99.1%、北見管内月計で99.8%、累計99.8%の実績となっております。初妊牛の動向ですが、7月分娩が中心となります。府県からの購買については落ち着いてくると思われますが、道内での購買が活発に行われており、相場としては横ばいで動くと思われます。また、ホル腹については、市場に出回る頭数が少なく、F1腹と価格差が少ない状況です。
	初妊牛	55~58	↗	
	経産牛	40~47	↗	
道内総括	育成牛(10-12月令)	29~35	↗	3月中旬までの生乳生産量前年比は、月計で100.8%、累計99.6%になっております。初妊牛の価格動向ですが、7月分娩が中心となります。府県からの購買については若干落ち着くと思われますが、今後資源が減少していくことから、乳量の回復を図るために導入せざるを得ない状況もあり、価格については横這いで推移すると思われます。夏産み前のため、資源が急激に不足することもあるため、購買のご予定がありましたら早めのご注文をお願いいたします。
	初妊牛	55~60	↗	
	経産牛	43~50	↗	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

酪農いきいきフォトコンテスト

今月の表紙は、「酪農いきいきフォトコンテスト」(全国酪友フォーラムにて開催)に応募いただいた作品(愛知県森智子氏撮影)です。みな真剣な表情で、乳搾り疑似体験をしています。うまく搾れたでしょうか?



▼今年は記録的な豪雪により各地で被害出るなど、例年に増して寒い冬でしたが、3月末より暖かい日々が続いており、東京でも綺麗な桜が見られるようになりました。
 ▼今年度も、「嫁・婿が語る酪農の魅力」「地域のグレープ活動紹介」を企画しております。皆様に役立つ情報を提供できるよう、努めてまいりますので、今年度もどうぞ、宜しくお願い致します。



平成24年4月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 4月号 No.559

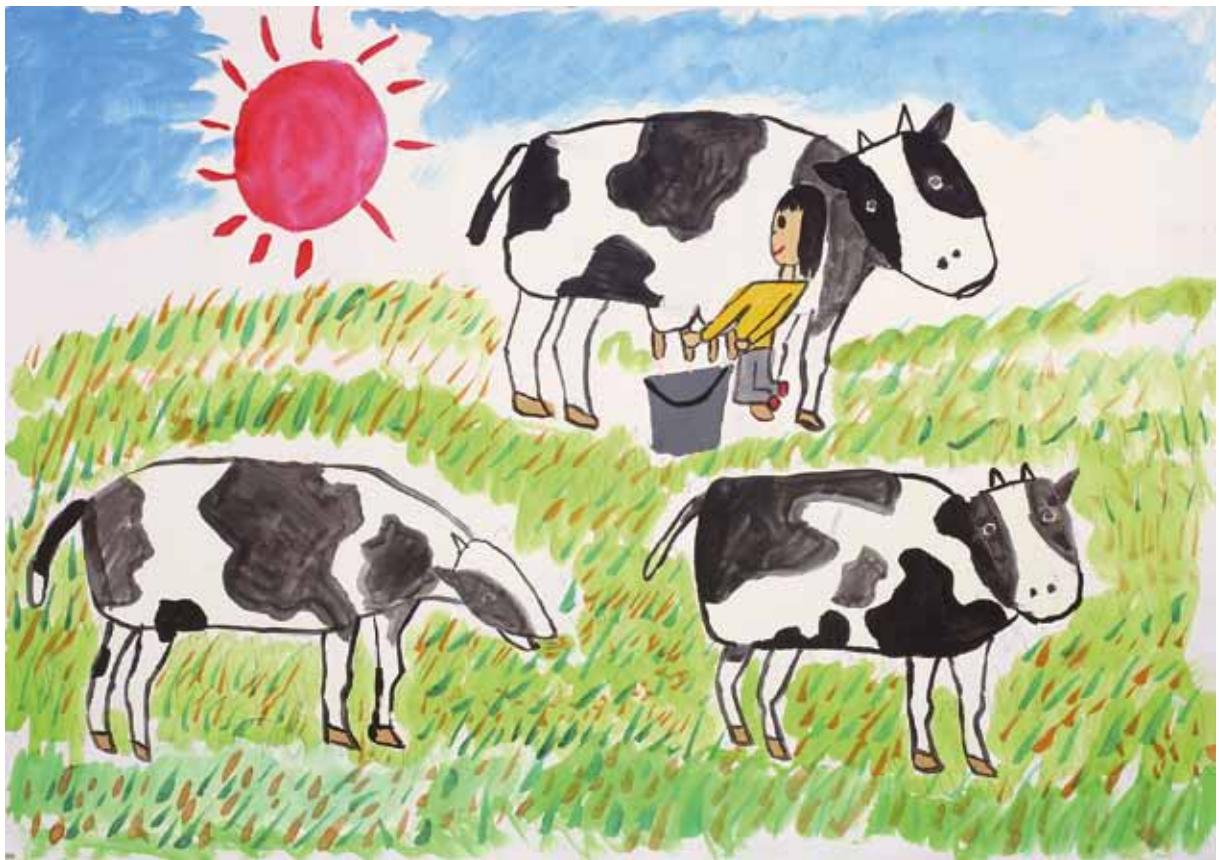
●編集・発行人 近藤 祥史

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003

<http://www.zenrakuren.or.jp/>



今月の

らくのうこども
ギャラリー

入賞作品紹介

牛となかよし

関岡小学校(東北)2年 藤井 翠



今 月の入選作品は、関岡小学校（東北）2年の藤井 翠さんの「牛となかよし」です。
一点の曇りのない明るい作品に仕上がっています。いろいろな仕草の牛さんが描
けましたね。次回は違った角度から描かれた牛さんも見てみたいですね。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第38回らくのうこどもギャラリー」で
全国279点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議

第41回

全国酪農青年女性 酪農発表大会

in 神戸

平成24年
7月 12・13
 木 金

日 程

7月12日(木)

- 13:00~13:55 開会式
- 14:05~16:20 酪農経営発表
- 16:20~16:30 らくのうこどもギャラリー表彰式
- 16:45~18:20 酪農意見・体験発表
- 19:00~21:00 懇親会

7月13日(金)

- 9:00~ 9:35 酪農経営発表質疑応答
- 9:35~10:00 酪農意見・体験発表質疑応答
- 10:15~11:40 審査講評・表彰式
- 11:40~11:50 閉会式

会 場



神戸国際会議場

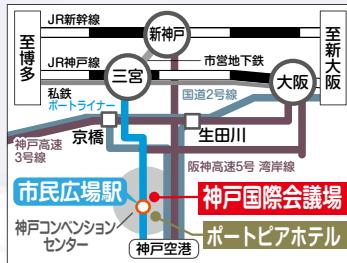
〒650-0046
神戸市中央区港島中町6-9-1

TEL. 078-302-5200

(懇親会) 神戸ポートピアホテル

〒650-0046
神戸市中央区港島中町6-10-1

TEL. 078-302-1111



(アクセス)

- 高速道路 阪神高速3号神戸線 京橋出口 5分
- 阪神高速3号神戸線 生田川出口 5分
- ポートアーバン線「市民広場」駅徒歩すぐ

参加費

1名 11,000円(大会・懇親会まで)

※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。